



昭和52年 県高校総体 代表決定戦での試合風景

「ト」の嵐が鳴り響きました。合宿中の厳しい練習により嘔吐する者、疲労で食事を摂れず倒れる者など、体力・精神的にも厳しいものでした。そんな中でもユニークだったのが、食事前に全員で歌う「ごはんの歌」です。ごはんんだ、ごはんんだ、さあ食べよう風もさわやか、\*心も軽く みんな元気だ、感謝して 楽しいごはんんだ、さあ食べよ（線路は続くよどこまでも）のメロディで）

（\*実際は「心も軽く みんな元気だ」とはほど遠い状態でしたが…）

一方、普段の練習は授業終了後の約1時間半、中学時代より短時間ながら

も中身は濃く集中したものでした。また、先生の教え子がいる国鉄秋田（現JR東日本）、小坂鉦山（同和）や秋田大学など社会人や大学生との練習試合は、チームを大きく成長させたものと思います。

また、試合形式の練習では、プレーが止まらなくとも、気づいたところがあると、先生はホイッスルを鳴らして、選手個々の動きに指示や改善点を出されます。指示や改善点を受けた人だけでなく全員が耳を傾け、自らのプレーに活かす姿勢が根付いていました。

### あと一歩で全国大会に届かず

高校総体では、昭和50年は決勝まで進出するも能代工業に敗北。その年、能代工業は初の三冠王（全国選抜、高校総体、国体で優勝）を達成しています。翌51年は、能代工業が前年全国優勝のため県代表枠がもう1校増えたことから、雄物川高校と代表決定戦で対戦、惜しくも2点差（51対53）で敗退、全国大会出場を逃しました。

そしてわれわれが3年生となった昭和52年は、突出した選手が卒業し、県内でも中の上程度のチームでした。新人戦では不甲斐ない戦いぶりに大先輩の堀田井孝三さん（昭和10年卒）が試合後、会場裏に集合した際、唇を震わせて怒っていたことが思い出されます。

そのような先輩の方々からの叱咤（しちた）がその後の奮起に繋がったものと思います。高校総体の準々決勝の秋田工業戦は、それまで一度も勝てていなかった強敵でしたが、チームの一体感と高揚



半世紀ぶりに昭和53年卒の同期が再会（2025年8月10日「秋高バスケット部創部100周年記念祝賀会」にて）

感に痺れたベストゲームではなかったでしょうか。一進一退のシーソーゲームでしたが、相手エースがファイブファールで退場、これが勝負を決しました。代表決定戦では大館鳳鳴高校と対戦、序盤から相手の固いゾーンディフェンスを打ち崩せずリードを許す展開。最後まで追いつけずに敗退。インターハイ出場は3年連続であと一歩及ばず叶いませんでした。

しかし、大会後は悔しさよりも、前評判も高くなかったわれわれが「ここまで来た」という満足感が残ったことを思い出します。

この夏、創部100周年記念祝賀会に際し、われわれ同期が卒業以来初めて一堂に会することができました。SNSを通じて再び繋がることができた仲間たちと半世紀前の記憶を頼りに本原稿を取りまとめました。過去の記憶や当時の思いを呼び起こす貴重な機会をいただいたこと、心より感謝申し上げます。

**ISUZU**  
秋田いすゞ自動車株式会社

代表取締役社長（昭和50年卒）

辻 良之

取締役経営企画部長（平成27年卒）

辻 良輔

<http://www.akita-isuzu.co.jp>



（株）大湯村松橋ファーム

代表取締役 松橋 拓郎（平成17年卒）

入院のできる  
かかりつけクリニック  
**山王胃腸科**  
SANNO ICHOUKA

院長 最上希一郎  
（平成7年卒）

TEL 018-862-5211  
<https://www.sanno-ichouka.com>



**A・B・C**

株式会社  
秋田物流センター

代表取締役  
齋藤 靖之（平成7年卒）

本社／物流センター御所野湯本  
〒010-1415 秋田市御所野湯本二丁目1番2号  
TEL(018)853-7211 FAX(018)892-6792  
<https://abc-buturyu.com>